

# 教會の職制

## 1. 定義 .

ギリシヤ語の相當語は〈ギ〉ディアコニアとその同族語である．新約聖書には\*使徒を始めとして，\*預言者，傳道者，\*牧師，教師，\*長老，\*監督，\*執事などの職務があり，それによって教會の活動が維持され運営される．この制度を，職制と言う．ただし新約聖書においては，職務の内容に不明確な點があり，制度として完全には確立していなかったように思われる．

## 2. 職務の區別 .

教會の第1の職務は，キリスト御自身によって選ばれ任命された\*使徒のそれである．使徒の職務はユニークなものであるから，嚴密な意味でそれを繼承することはできない．しかし，二次的な意味で恒久的に有効性のある職務と言える．この職務は特に，預言者，教師，傳道者の職務と関係があり，幾分異なる意味では，監督，長老，執事の職務と関係がある．使徒の職務は，管理的というよりも，むしろ\*祈りと宣教の職務として理解されなければならない．それは監督や長老の職務と對照的であって，地域的に定着した教化，指導の働きよりも，第一に宣教と傳道活動という世界的で特別な働きである．

新約聖書では，みことばの奉仕と管理的な働きとの間に明らかな區別がある．地域的に見れば，前者は長老，監督の形で行われ，後者は執事によってなされたようである．しかし，その場合でも，それは機能の相違であって，職務の相違を意味するものではない．例えば，食卓に仕えるために選ばれた7人は，みことばの力強い働きも行った（少なくとも，ステパノとピリポの場合はそうである）．また使徒たちは，實際的な配慮にある程度かかわりを持たざるを得なかった（\*パウロは獻金を集めるための計畫を立てて實行した）．

特別で通常外の（extraordinary）職務と，通常の（ordinary）職務という區別がよくなされる．初代教會の時代においては，どこの教會でも宣教活動を何よりも中心的に行うという特別な状況にあったため，一方では「宣教者」たちが巡回活動によって\*傳道，奨励，教育の働きに従事し，他方，地域の牧師たちは新しく建てられた教會において，通常の實際的，靈的働きの必要に應えていたと言うのである．しかし，こういう單純な區別は多くの誤解を生む原因となっている．まずこうした考え方は，誤った理解の上に立っている．すなわち，みことばに関する職務と組織化に関する職務との間に基本的な區別があるという前提が見られ，あたかも地域の各教會では後者の働きだけがなされていたかのように考えているからである．しかしこうした考え方は，聖書に見られる事實によって否定されることになる，すなわち，使徒は長老でもあったし（Ⅰペテロ5：1），監督も教える務めを果たすことができなかった（Ⅰテモテ3：2）．また，使徒や預言者がいる所では，地域の牧師は，みことばの奉仕の點で彼らの優位性を認めたが，彼らが存在しない所では，牧師たちがそれぞれみことばと\*禮典の奉仕をしなければならなかった．

通常外の特別な働きが初期になされ，その後に長老・監督による通常の働きがなされる

ようになった，というように時間的に區別することも，歴史的な事實に合わないことである．地域的な働きを越えた宣教や教育の働きは，後になってもなされていた．宣教活動をした多くの人々は長老や監督であり，新しい地域での活動において，使徒的な働きをしたからである．宣教的でより廣範圍にわたる教育的働きが，地域的な通常の働きの多くを占めているという理由から，G・U・ロミリは「通常外の特別な」働きと「通常の」働きとに區別することに反対している．新約聖書の状況を，通常で一般的なものではなく異状で特異な状況と考えるなら，それは教會の職務を理解することを最も困難にし，その職務の働きを弱体化する，と彼は論じている．なぜなら，より廣い範圍にわたってなされる働きのほうが地域的な働きよりも重要なもの，と見なす結果になるからである．しかし，これら兩者の關係は競合のそれではなく，相互補完の關係にあるとすることができる．一つの地域の牧會的な任務は必要であり合法的なものであるが，それがすべてではない．どのような時代であっても，そうした働きとともに，宣教，教育，神學的必要が存在し，使徒，預言者，教師たちによって，それらの必要が満たされていた．そして，こうした職務を遂行した彼らは，同時に地域の長老であり監督であった．これは職制上の區別ではなく，機能の區別である．多様な必要，任務，\*召命により，異なった様式で一つの働きが遂行されたのである．従って，活動のためにある職制は，何か固定化した一つの型にはまったものではないことに注意しなければならない．それでプロミリは，使徒的な職務と地域的な職務との二つに區別する．そして，前者には使徒，預言者，教師，傳道者の四つを加え，後者には執事，長老，監督の三つを加える．以下，その區分に従って検討する．

### 3．使徒的職務．

新約聖書において，範圍のより廣い職務として四つの主要な職務があるが，これらは相互の間に明確な區別があるというよりも，むしろ互いに他の性質を含む流動的なものということができる．ただはっきりしているのは，その機能が地域に限定されてはいないということである，使徒は傳道と教育の兩面の働きに従事し，預言者と教師は教育に，傳道者は傳道に主として従事した．

#### (1) 使徒．

新約聖書では，使徒という用語は狹義と廣義の兩方に使われている．嚴密には，直接イエスによって召された12人（後に11人）を指す．後に\*ユダに代ってマッテヤが加えられた（使徒1：25，26）．パウロも狹い意味の使徒に加えられるのにふさわしい人物で，主の地上の働きについて特別に知っていた者として加えられた（ローマ1：1以下，ガラテヤ2：7-9）．バルナバは使徒と呼ぶことができるようであり，イエスの目撃者であると考えられるので，12人と同じランクに加えることができるかもしれないが（参照使徒14：4，ガラテヤ2：7-9），むしろ廣い意味での使徒に加えられるのが普通である．廣い意味の使徒には，アンドロニコとユニアス（ローマ16：7），シルワノとテモテ（参照Ⅰテサロニケ1：6），そしてアポロ（参照Ⅱコリント8：23欄外注）がいる．

使徒は直接イエス・キリストによって召され（マルコ3：14，ルカ6：13，ガラテヤ1：1），キリストの生涯，特にその復活の目撃者である（ヨハネ15：27，使徒1：21，22，Ⅰコリント9：1）．また彼らは自分たちの述べる教えについて，\*聖靈の靈感を意識して

おり（使徒15：28，Ⅰコリント2：13），\*奇蹟を行う權威を授けられていた（Ⅱコリント12：12）。使徒の第1の務めが祈りとみことばの奉仕であったことは、彼らが傳道者であり教師であったということを示す。彼らはある地域にしばらくとどまることはあったが、おもに巡回の働きをなし、また地域教會を越えた働きをした。すでに指摘したように、使徒たちの働きはユニークであって、他の者がこのような權威ある知識と理解を得ることはできなかった。ただし、彼らの働きを二次的な意味ですることのできる人々はいた。宣教のため、また教理的あるいは靈的改革が求められるところでは、そういう特別に召され賜物を與えられた者がその仕事に當った。

## （2）預言者．

新約聖書の時代には舊約聖書の\*預言の再興が見られた。初期にはバプテスマの\*ヨハネ（マタイ11：9）、シメオン（ルカ2：25-35）、アンナ（ルカ2：36）がおり、イエスの母\*マリヤ自身も預言の賜物を與えられたことを示している（ルカ1：46-55）。そしてイエス御自身が預言者の到來を豫告された（マタイ10：41，23：34，ルカ11：49）。\*ペンテコステの後、この約束は速やかに實現した。カイザリヤ、アンテオケ、さらにパウロの傳道した群れの中にも預言者が生れた（使徒11：27，15：32，21：9以下。参照ローマ12：6以下，Ⅰコリント14：32，ガラテヤ3：3-5，Ⅰテサロニケ5：20）。その中で預言者として名前を挙げられている者には、アガボ（使徒11：28，21：10）、シメオン（同13：1）、ユダとシラス（同15：32）がいる。また、ピリポに預言する4人の娘がいたことは（同21：9）、アンナの場合とともに、舊約聖書と同じく女預言者のいたことを物語っている。

預言の内容は、品物を用いて例示して將來を豫告するということもあったが（使徒21：11）、主として、單なる解説とは違った教育的な内容の教えや勧めがなされたり（Ⅰコリント14：31）、直接的な靈感による指示や、時には幻を語るような面もあったと思われる。使徒職と同様に、恐らく巡回してなされる特別な働きでもあったと考えられるが、地域に密着した面もあったり、中には長老がそうした働きをしたということも考えられる。一方、パウロが偽預言者に對する注意を促していることから見ると、舊約聖書の時代以上に偽預言者が多かったのであろう。

## （3）教師．

新約聖書の教會において、使徒及び預言者とともに、教師が特別な働きをしていた（Ⅰコリント12：28）。パウロは教師という特別な働きの場のあったことを述べているし（Ⅰコリント14：26）、彼自身、自分を教師と見なしている（Ⅰテモテ2：7，Ⅱテモテ1：11）。もちろん教師は地域的な職務として、牧師（エペソ4：11）や長老（Ⅰテモテ5：17）、監督（テトス1：9）をも兼ねるものとなっていたことは事實である。しかし、この教える職務には、地域に限定されない使徒的な要素もあった。ただ、使徒職との相違を挙げれば、教える職務は宣教的な面よりも教育的な面が中心であったと考えられる。また、預言者がより自由な形で勧めをしていたのに比べて、教師はその形式と内容において規則性が求められていたのであろう（参照Ⅰテモテ2：7）。使徒たちが世を去り、異端的な教えが廣がるにつれて、教師の働きは、地域に定着することが必要となっていたもの

と考えられる（参照Ⅱテモテ2：2）。

#### （4）傳道者．

使徒、預言者、教師とは別に、傳道者が一つの職務として挙げられているが（使徒21：8，エペソ4：11，Ⅱテモテ4：5），彼らについて、またその働きの内容について、新約聖書にはほとんど述べられていない．ピリポ、テモテ、テトスがこのグループに属している．傳道者は、福音を宣べ伝える点では使徒に似た者であるが、使徒職に求められるような資格—キリストについての直接的な知識、キリストからの直接的な召命—というものはなかった．テモテの例から見ると、使徒と行動を共にする時もあるれば、使徒を助けたり、使徒から派遣されて特定の働きをすることもあった．その中には、宣教、洗禮（\*バプテスマ）を授けること、長老を任命すること（Ⅰテモテ5：22，テトス1：5），戒規の施行（テトス3：10）なども含まれていた．彼らの權威は地域的というよりも、より廣い範囲に及んでいたと思われる．

### 4．地域的職務．

このグループに属するものは、執事、長老、監督である．

#### （1）執事．

エルサレム教會における7名の任命（使徒6：1-6）が執事の任職かどうかについては、議論のあるところである．\*ルカが彼らを執事とは呼んでいないことや、彼ら7名がそれぞれギリシヤ名で呼ばれ、ヘブル語を使うパレスチナのユダヤ人ではなくギリシヤ語を使うヘレニスティックなユダヤ人と考えられるところから、彼らは使徒に匹敵する働き手であったという主張がある．しかし、7名が「食卓のことに仕える」（使徒6：2）ために選ばれ、「もっぱら祈りとみことばの奉仕に勵む」（同6：4）使徒たちと對比される働きにつく者として任命されている事実を考えると、執事の出発点がこの7名の選出にあったと考えてよいのではないだろうか．もちろん、この使徒的教會の段階においては、まだ執事の働きそのものは明確なものに發展していなかったわけである．しかし、それから10年あまり経過する中で、各地の教會に執事職というものが定着していったことは明らかである（ピリピ1：1，Ⅰテモテ3：8以下）．

#### （2）長老．

長老は、使徒、預言者及び教師とともに、教會の比較的初期に登場する．エルサレムでは、ヤコブとともに長老たちが會堂の方式に沿って教會を治めている（使徒11：30，21：18）．エルサレム會議のような場合には、長老たちは使徒たちとともに全教會的な議事に参加している（使徒15：2，6，23，16：4）．長老は、パウロがアンテオケに滞在していた時代には現れていない（使徒13：1）し、パウロの書簡の初期のものにも言及されていないが、恐らく教會の統治のことがまだ中心的な問題ではなかったのであろう．しかし、第1回傳道旅行の時にはパウロとバルナバは、設立された教會すべてに長老を立てている（使徒14：23）．その立てる方式についてはほとんど知られていないが、恐らくユダヤ人の會堂の場合のように選出し、その上で使徒によって任職されたのであろう（参照Ⅱテモテ1：6）．さらに後の時期になると、使徒の補助者によって任職されたようである

( 参照テトス1:5 ) .

見守ることとともに、教えることが長老の望ましい機能とされている( I テモテ5:17) . 使徒、預言者、教師がその巡回する教會に對して奉仕することができなくなるにつれて、教えることと宣べ伝えることは地域の長老たちの役目になっていった . そのため、長老の職務と資格に關心が持たれるようになり、それとともに發展が見られるようになったと思われる . それが長老職の分化をもたらしたのであろう .

### ( 3 ) 監督 .

異邦人教會では長老の代りに監督という名稱が使われるようになった、という考えがある . 新約聖書では、「長老」と「監督」は互換性のある用語として使われている( 使徒20:17, 28, テトス1:5-9 ) . しかし、監督がすべて長老であることには間違いのないとしても、その逆が眞實であることは疑わしい .

後になると、長老たちに支援される監督という存在の傾向が、新約聖書の中にさえ見られる . 例えば、エルサレム教會のヤコブは後の時代の意味での監督ではないが、明らかに指導的立場にあった( 使徒21:18 ) . また明らかに一時的なものであるにしても、テモテやテトスの指導的機能は、少なくともある地域にとっては、個人による監督的指導の必要のあったことを示している .

主イエスとその使徒たちのモデルは職制の原型となるわけであるが、新約聖書も教會の歴史も、使徒の權威が監督だけに集中するというようなことを認めていない . むしろ、明確なものはないにしても、三つの機能、すなわち、慈善的奉仕、靈的管理、指導的統治というもののの中に、また執事と長老と指導的長老という三つのグループの存在の中に、將來の三つの職務というものの萌芽が見られる . プロミリによると、3世紀までには、各地の信者の群れに對して、三つの職務の組織化が指導されている . すなわち、その場合、1人の監督と少なくとも2人の長老と3人の執事が任命されたのである .

宗教改革の時に、\*カルヴァンは四つの職務を、教會の通常の政治としてキリストが定めたものと考えた . すなわち、牧師、神學教師、長老、執事である . 長老は人々の代表として、牧師あるいは監督とともに、戒規に對する責任を負った . 實際に小會を構成したのは牧師と長老と執事であり、この小會が地區會議を構成した . これが後の\*改革派教會の原型を生み出す . スコットランドでは、長老が終身的な職務として任職され、陪餐會員と病人とに對する責任を持った . I テモテ5:17に基づき、教える長老と治める長老とが同じ立場で會議を構成した . これが後の\*長老派教會の原型となった .

## 5 . 教會の働きと職務 .

教會は地上に組織され、その構成員は地上の人間である . しかしながら、教會の支配者はキリストであり、教會員はキリストに結合されているゆえに天的性質を所有することを、われわれは聖書によって教えられている( I ペテロ2:9 ) . 従って、教會の働きは聖書を通して、神によって定められており、その目標、手段、組織もそれに基づいて決定さ

れる。

教會は三重の目標を荷なっている。その第1は主なる神に對するものであり、教會は何よりも\*禮拜する群れである。イエス・キリストの贖いのゆえに、われわれははばかりことなく神に近付くことができ、聖靈の助けにより正しく眞實に自らをささげる禮拜をするように導かれている（ヨハネ4：23，24，ローマ12：1，Iペテロ2：5）。パウロが使徒として召されたのは、異邦人により神の御名があがめられるためであった（ローマ15：8-16）。

教會の働きの第2の目標は、聖徒たちに對する\*奉仕である。それは具體的には、特に信者相互のための教育という形で現れる（エペソ4：12）。信仰者はみことばを教えるように召された人々の奉仕により、互いに成長する。教育された者はさらに他の人を教え育てることができるようになる。相互の教育によって、キリストのからだである教會全體が結び合され、成長し、愛のうちに建てられる（エペソ4：16）。

教會の働きの第3の目標は\*世に對するものであって、宣教という形でなされる。この宣教について、教會は二面を持つ。一つは山の上に立つ町のように人々に見られて、人々を引き寄せる面（マタイ5：14）、もう一つは、地の果てにまで\*福音を運んで行く福音の使者という面（マタイ28：18-20，ルカ24：28，使徒5：32，ピリピ2：14-18）である。この二つは、車の兩輪のように互いを必要とする。

これら三つの目標の間には密接な関連があり、全體として一つの召しである。例えば、パウロは異邦人傳道に召されたが、その目的は彼らが救われて神をあがめるようになることだと言う（ローマ15：9）。教育と禮拜も切り離すことができない（コロサイ3：16）。また、禮拜が神への賛美で満たされる時、その禮拜はこの世に對する最も強力な\*あかしとなる。教育が行われる中で宣教が推進することも、明らかな事實である（マタイ28：19，20）。

この教會の三つの目標を果していくために、聖書は三つの手段を擧げている。その第1はみことば（\*神のことば）である。みことばによらなければ、禮拜（出エジプト20：4-6，マタイ15：9，コロサイ2：23）も、教育（ヨハネ17：17，テトス1：9，Iペテロ1：23）も、宣教（Iコリント1：21，エペソ4：11，12，IIテモテ4：2）も正しく行われることができない。主のことばが廣く豊かに語られ、聞かれ、廣められていく中で教會の成長が見られてきたことは、初代教會の時代からの事實である（使徒12：24，19：20）。

手段の第2は秩序である。神は無秩序の神ではなく、\*平和の神であり、教會にも秩序を求められる（Iコリント14：40）。しかも、このことは禮拜において\*禮典をみことばに忠實に行うこととも関係し、さらに愛の思いをもってなされる訓練（戒規）も含んでいる。聞かれ信じられるみことばは服従される必要がある。信者は互いの重荷を負い合い、互いに愛し合うようにというキリストの命令を行うよう勧められている（ガラテヤ6：2）。教會の訓練（\*教會戒規）は公的なものばかりでなく、教會内での信者の相互の訓練、牧會が教育的になされる（ローマ15：14）。

第3の手段は\*あわれみのわざである。キリストは弟子たちを用いて飢えている者たちに食物を與え、また弟子たちに力と\*權威とを授けて、病に苦しむ人々にいやしを與えるようにされた。主にある兄弟姉妹に仕えることは、主御自身に仕えることである（マタイ25：31-46）。良きサマリヤ人の\*たとえに見られるように、助けを必要とする人を助けることは、主の\*愛をもって隣人となることである。まず信仰のある人に對し、そして機會があればすべての人々に對し隣人となるのである（ルカ10：36、ガラテヤ6：10）。あわれみの働きは、禮拜においては\*獻金という形でも表される。パウロはエルサレムの貧しい聖徒たちを助けるための獻金を、神へのささげ物と見なした（Ⅱコリント9：12-15）。助けを受けたユダヤの信者たちは、異邦人の福音への從順を知らされて、二重の喜びに満たされた。宣教師や教會の慈善の奉仕によって、福音に心を閉していた異教の地の人々が心を開かれるのを見る時、その奉仕が宣教の手段ともなっていることを教えられる。

このように、教會の働きの目標のための手段を用いるに當って、教會のかしらであるキリストは、その手段に必要な\*賜物を與えて下さる。それゆえすべてのクリスチャンは、これら三つの手段を用いることができるように、何らかの賜物を與えられているのである。例えば、すべてのクリスチャンは、聖書のことばに従って神を\*賛美する（禮拜におけるみことばの働き）。また、聖書を用いて仲間の信者を教え勵まし訓練する（教育におけるみことばの働き）。さらに、人々にキリストの御名を告白する（傳道におけるみことばの働き）。秩序の點でも、あわれみのわざの點でも同じことが言える。このように、信仰者には共通な賜物が與えられている。またそれだけでなく、ある信仰者には通常以上の賜物と召しとが與えられていて、神のみことばの理解の面で、權威をもって宣べ伝える面で優れている。そのような人は、傳道や教會の教育において、また禮拜において神の御名をあげ、實を結ばせることができるであろう。こうした特別の賜物を與えられた者が神の召しの中で訓練され、教會の承認を受け、特別の奉仕をすることになる。それがみことばのために仕える牧師や教師や傳道者の職務（使徒20：28、ヘブル13：7、Ⅱテモテ4：2）であり、秩序のために仕える長老の職務（Ⅰテモテ5：17、テトス1：5）であり、あわれみのために仕える執事の職務（ローマ12：8）である。